

令和6年度

第1回 木更津市文化財保護審議会

日 時 令和6年7月29日（月）午後2時から

場 所 木更津市郷土博物館金のすず 集会室

# 会 議 次 第

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 会議内容

## 審議事項

第1号 木更津市指定文化財の指定について（諮問・答申）

## 報告事項

第1号 木更津市指定文化財「中越遺跡出土小銅鐸」の現状変更について

第2号 木更津市立金田小学校旧校舎の建物調査について

第3号 令和5年度木更津市史編さん事業の成果について

第4号 木更津市指定文化財「旧安西家住宅」の現状について

## 視 察

木更津市郷土博物館金のすず 常設展

## その他

5. 閉 会

## 審議事項 第1号 木更津市指定文化財の指定について（諮問）

### マミヤク遺跡跡出土子持勾玉

- 1 資料名 子持勾玉
- 2 員数 1点
- 3 種別 有形文化財（考古資料）
- 4 所在地 木更津市太田二丁目16-2 木更津市郷土博物館金のすず
- 5 所有者 木更津市
- 6 製作年 5世紀
- 7 法量 高さ9.3cm、幅3.5cm、厚3.8cm、重さ269.6g
- 8 石材 滑石
- 9 経緯  
昭和60年10月 小浜地区土地整理事業に伴い、財団法人君津郡市文化財センターにより実施された発掘調査で出土。  
平成元年3月 財団法人君津郡市文化財センターより調査報告書刊行。  
令和5年7月 第1回文化財保護審議会 新指定候補として選定。  
8月 千葉県立中央博物館 高橋直樹氏による石材鑑定  
12月 第2回文化財保護審議会 木更津市指定文化財の指定に係る資料概要報告（笹生委員）。

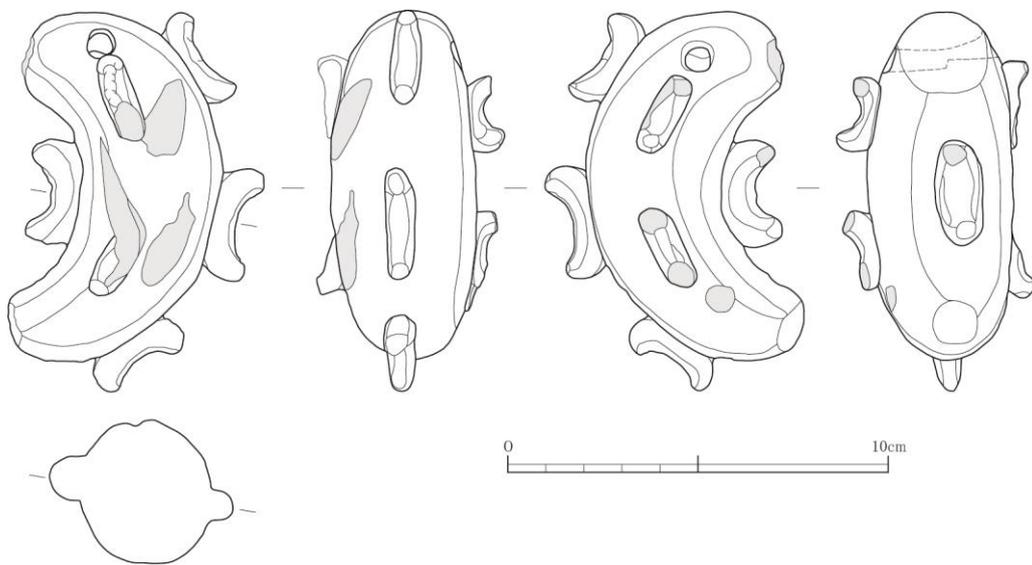
### 10 市指定文化財としての適否

本資料は、発掘調査により出土した良好な資料であり、表面には調査時に生じた破損が認められるものの、欠失部分の無い良好な遺存状態である。さらに、集落内の1号・2号祭祀遺構との関連が想定できる、極めて貴重な事例であり、古墳時代中期の祭祀の実態を知るうえで、本資料は重要な意味を持つ。

以上により本資料は、木更津市域はもとより、房総さらに日本列島全域の古墳時代中期の歴史を語る上で欠くことができない資料であり、木更津市指定文化財（有形文化財・考古資料）として指定することが適切であると判断される。

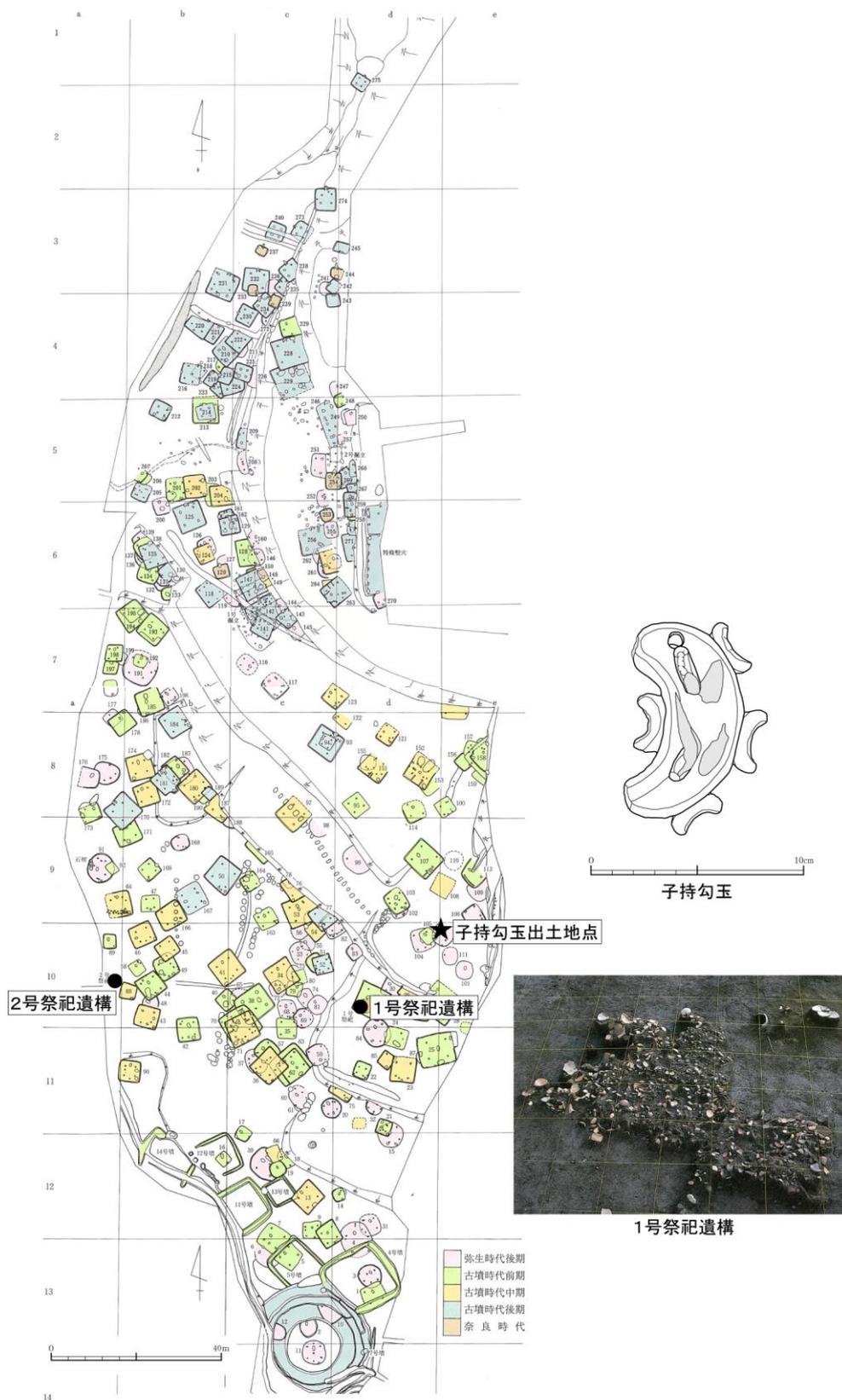


マミヤク遺跡出土の子持勾玉



子持勾玉実測図

マミヤク遺跡子持勾玉出土地点



## 報告事項 第1号 木更津市指定文化財の現状変更について

公益財団法人千葉県教育振興財団設立 50 周年記念事業「地中からのメッセージ  
～旧石器・縄文・弥生～」の記念展示のため郷土博物館金のすずより貸出。

貸出資料 木更津市指定文化財「中越遺跡出土小銅鐸 附石製舌」  
(令和4年8月9日指定)

貸出期間 令和6年5月27日～令和7年3月21日

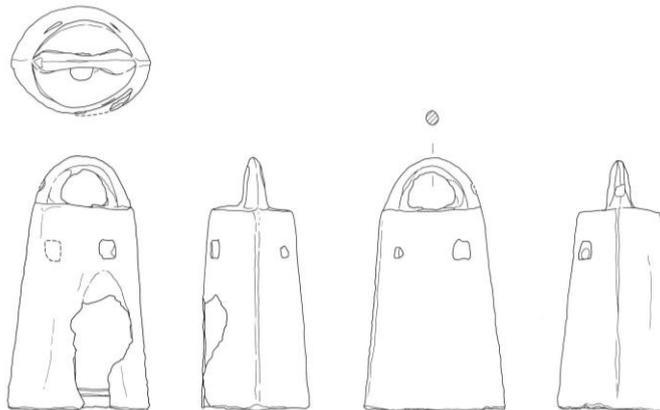
展示期間・会場

令和6年9月21日(土)～11月17日(日)

県立房総のむら風土記の丘資料館

12月21日(土)～令和7年2月9日(日)

県立中央博物館



中越遺跡出土の小銅鐸・石製舌 実測図



小銅鐸・石製舌

## 報告事項 第2号 木更津市立金田小学校旧校舎の建物調査について

木更津市史編さん部会（近・現代部会）による建物調査を実施。



金田小学校旧校舎建物調査（6月12日）



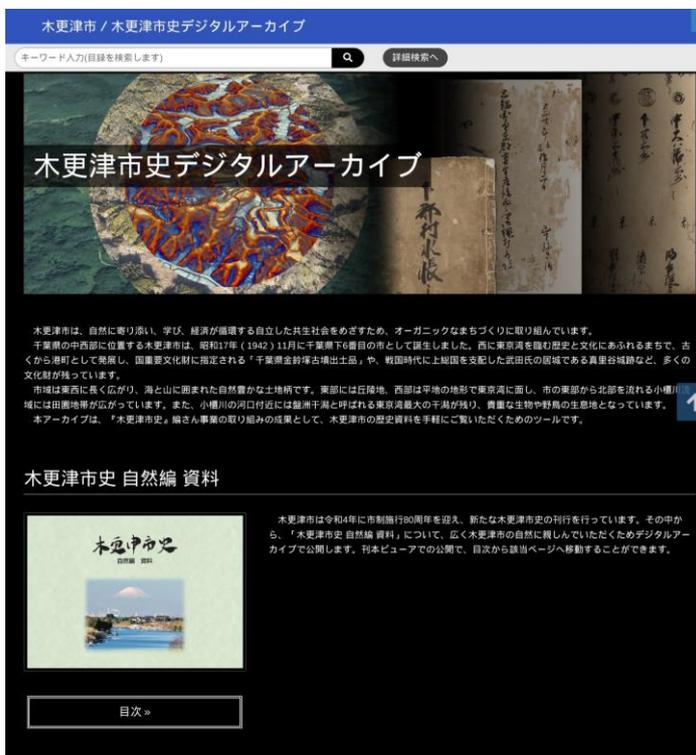
同（7月10日）

## 報告事項 第3号 令和5年度木更津市史編纂事業の成果について

「木更津市史 史料編4 古代」を刊行し、「木更津市史 自然編 資料」をデジタルアーカイブで公開した。



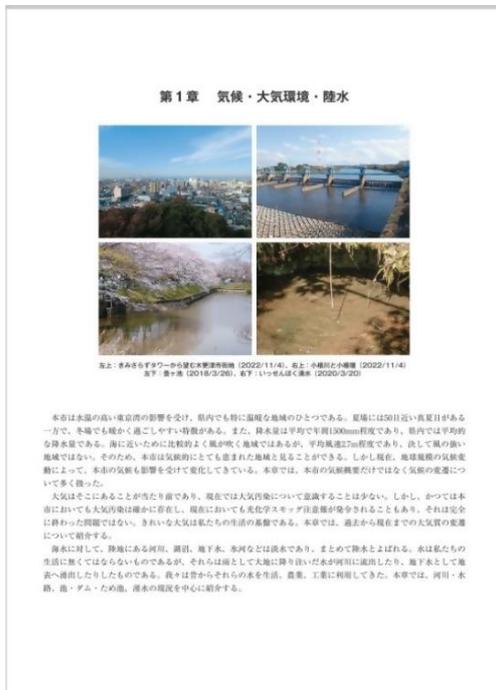
市ホームページ 木更津市史デジタルアーカイブバナー



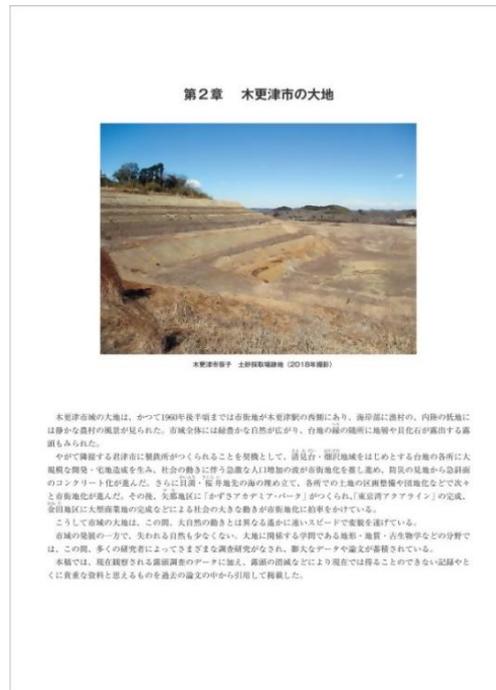
木更津市史自然編 資料 導入部分



自然編 資料 表紙



第1章 気候・大気環境・降水



第2章 木更津の大地

### 第3章 植物



タカノハシメシラン

当市の西側は東京湾に面し、小幡川、大幡川、沼田川、鶴田川が流入している。海岸部は、商業地帯や港湾施設と自動車基地が多くの面積を占め、小幡川河口を中心とした数河川間があり緑地帯を形成している。

沼田川を含む内陸部は、小幡川西岸に丘陵地帯が広がり、江戸時代に農業生産地として栄えた雑木林が遺り、水尻津地区・鎌足地区・渡田地区・宮東町西地区に連続して存在する。

森林からは流水が湧いて小川となり谷津田を形成して、丘陵地帯と共に、耕作文化に付随した豊かな植物相を育んでいる。宮東町東地区は、標高100～200m程度の丘陵地帯で、原野と連なる植物が随所に見られる。自然環境の豊穡が残る中郷地区は、低湿平野を流入する沼田川と野原帯が広がる。水田帯特有の希少な植物も生息している。

市域は、西側目から太平洋に連続する常緑広葉樹林帯（常緑雑木林）の東端に位置する。一方、内陸部と常緑帯の移行帯に見られる常緑針葉樹のミズナギが点在すると共に、県北部と北関東に見られる北方系の常緑広葉樹は丘陵地帯を中心に分布している。常緑広葉樹・常緑針葉樹・落葉広葉樹が混在し、扇状地と常緑帯系植物が生息しているのが当市植物相の特徴である。市史資料に当たり市内全域の環境を把握するため市史館で常緑帯系と市史館から市民の自然調査を実施し、市史館の自然史資料を整理してここに記した。

市内には、古い歴史を持つ寺社や神社が旧暦（平成30年千葉県自然史学調査報告）存在し、多くの古民家があり宗教的・生活文化に密着した形で多数の自然・日本が育んでいる。これらも環境の調査にマッチし、市民がボランティアの参加を持って調査記録した。

農業や漁業は極めて重要な産業であり、自然環境は市域や住宅地の拡大と共に影響を受け、生活環境の保全に欠かせないものである。環境や自然環境も生活に密着したまま重要な役割を果たしており、これらの自然環境も自然環境と密着しているため市民を調査して記録した。

本項では自然環境で得た調査結果を整理して、自然・日本の調査資料と自然環境の記録も記載する。

### 第3章 植物

### 第4章 動物



クヌギ・キヌギの足跡、鳥、蝶、アマガエルの足跡

モートンイトトンボ、自然環境の動物相が豊かな市域

第4章を中心に、市内に生息する動物の種類と生息環境を紹介する。まずは地域に目を向け、今ある自然と過去の記録を調査した。今までのフィールドワークから大きなもので、今までの調査で確認した。その種類は合計で200種を数えた。記録したフィールドワークの記録の中で今回初めて確認された動物は、土壌動物、水生動物などを確認すると共に1分間は越えるだろう。本定例市内には実に多種な動物が生息している。

動物は生きて存在するもので、どのような環境の手法や観察（例えば環境DNAや数値記録）を行ったとしても、最後に残っているのはフィールドでの観察記録だと言う。調査の研究者や専門家には限られて記録のなかった自然環境を埋める過去の資料として活用していただければ嬉しい。多くの市民が身近な自然を知り、自然と共にあることを実感し、暮らしと自然のつながりを感じていただければ、特に、都市を流す川や池や田んぼや畑に生息することを確認し、意識が広がってくださることを願う。それらは地域の自然環境を守り育てる重要な視点となるはずである。ただし、調査にはまだ十分な手がかりが少なく、生態的側面には調査という段階である。今後とも記録を積み重ね、さまざまな意見をいただき、調査研究を促して自然環境を豊かにしていきたいと考える。

自然から学んでいる多くの思い、あるいはその逆の次も考えれば、現代は「自然と共生した生活」が求められる時代である。多くの生物種の絶滅を知り、自然に対する過剰な人為的影響を抑制し、野生動物の生息を助長する活動あるいは絶滅を避けることが急務である。私たちの生き方も、心の安定性も、生物の多様性より生かされるからである。

### 第4章 動物

### 第5章 盤洲干潟

—小幡川河口干潟を中心に—



小幡川河口 2011.2.9撮影

水尻津市の北西、金田・宇野地区の地先に広がる盤洲干潟は東京湾に残された最大の自然干潟である。中心部である小幡川河口には多様な干潟環境が残り、そこに生息する生きもの多様・多様である。この干潟は干潟環境の多様性と地形の変遷、用語の定義を解説し、水生動物・植物・哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類・昆虫、および昆蟲について調査した結果を紹介する。調査範囲は小幡川河口干潟を中心に、各分野ごとに設定している。さらに、河口三角州に特異な自然環境を残す浅瀬干潟(干潟)を有するためのモリス川(干潟)の一部(干潟)と干潟環境の歴史と現状、そこに生息する生きものを紹介する。

地学から見た干潟とは、海洋に発達する砂や泥からなる低平地であり、潮が満ちると海中に沈み、潮が引くと陸地になる部分である。潮が引いて残る潮間帯の低平地である盤洲干潟の面積は4つの区分干潟、すなわち干潟高干潟、中干潟干潟、河口干潟干潟、水尻津干潟の合計で構成される。この面積の総和は約1,200haまたは1,000haが算出され、河口干潟干潟に含まれる小幡川河口三角州は約600haである。盤洲の地名は小幡川河口が数多く残る金田地区にあり、南に向かってお祭りのように干潟が広がった地形からそのように言われたようである。干潟環境調査(1927)には「潮溜は又伴流とも盤洲とも書けり」の記載がある。盤洲の地名に広がる領域を盤洲干潟と呼ぶようになるのは1980年頃かと思われるが、現在は広く使われている呼称である。2000年頃より前に発行された文書・調査報告では盤洲干潟の表現はなく、河口干潟に代って小幡川河口干潟となっている。現在の小幡川本流と河口干潟北方に広がる扇状地に形成された通常の扇状地では見られない扇状地(干潟)は小幡川河口三角州、後述と呼ばれ、その扇状地に広がる干潟が扇状地に冠する小幡川河口干潟、後述である。扇状地は小幡川河口、小幡川河口干潟を指していることもある。この干潟は、干潟呼称、後述に記す。

\*水尻津市環境調査報告(「環境調査」No.4、1978)、日本環境調査「水尻津市環境調査報告(調査報告)資料集(1987)、盤洲干潟調査報告(調査報告)資料集(1987)、干潟調査報告(調査報告)資料集(1987)

### 第5章 盤洲干潟

## 報告事項 第4号 木更津市指定文化財「旧安西家住宅」の現状について

郷土博物館金のすず職員報告